

図書館タイムズ 2019年10月号

人吉高校記念図書館 令和元年10月7日発行



中間考査を終えてほっと一息でしょうか？図書館で、テスト前に人気がある本に「日本の歴史」「世界の歴史」などの学習漫画シリーズがあります。日本史や世界史のおさらいにぴったりなのか、特に3年生がよく活用しています。地歴公民科の先生からもお墨付きの歴史漫画シリーズ。普段から予習、復習として読んでおくと良いかもしれません☆

10/27~11/9は全国読書週間

文化の日を挟む2週間は「全国読書週間」です。

今年の標語には

「日々の時間は早く過ぎ去ってしまうときもあり、常になにかに追われる毎日ではあるけれど、開いた本の世界は、私の帰りを待ってから進んでくれる。」との思いが込められています。

いつも誰かを待っていてくれる本。そんな本の存在を意識してもらうためにも、図書委員会では毎年、読書週間の時期に合わせて**図書館まつり**を開催！



いよいよ今月！「図書館まつり2019」 10月28日(月)~11月1日(金)

みなさんの参加が不可欠の参加型イベント！来て・見て・触って・読んで♪

文化祭も目前ですが、図書館では年に一度の一大イベント「図書館まつり」の時期が近づいてきました。

みなさんに楽しみながら、本に親しんでもらえるように、図書委員全員で準備を進めています！

1週間の期間では足りない程、充実した内容です。ぜひ**読書の秋**を満喫しに来てください☆

(たくさんある企画については、図書委員作成の「れんが館倶楽部」で詳細をお知らせします。)

メイン企画：「あなたを待ってる本はどれ？」

図書委員がおすすめの1冊から**ポップ**(イラストや文字を

デザインして本の内容を紹介)を作成しました。

また、その本の「一行」を抜き出して掲示します。

あなたが気になった一行を選び、あみだくじを

たどると、**あなたを「待つ」本&ポップ**に繋がります！あみだくじに参加して、来館者プレゼント

の「お守り」も**GET**してね。

(ポップは文化祭でも展示しますので、見に来て！)

★他にも★ **図書館クイズ**：雑誌の付録が景品。豪華付録も！

じんきちくんど〜こだ?：図書館の至る所に隠れている「じんきち」を探して！(景品のじんきちグッズは3種類)

古赤本・古雑誌の配布：保存期間を過ぎた雑誌をプレゼント。曜日ごとにもらえる雑誌が変わります。



コンテスト作品募集中

言葉コンテストの作品を募集しています。

募集期限：10/21(月)まで

※ 詳細は教室掲示のポスターをみてね。

応募用紙は図書館まで。

ブックカバーコンテストは(作品募集は終了)

10/12文化祭で、先行投票！

図書館特集

NO IMAGE

「スポーツ観戦手帳」 東京書籍書籍編集部/編
観戦のポイントが簡潔！「監督は観客席にいる」などミニ情報も。
←「強くないたいきみへ ラグビー元日本代表ヘッドコーチエディー・ジョーンズのメッセージ」 エディー・ジョーンズ 著/講談社
↓「友情 平尾誠二と山中伸弥「最後の一年」」 山中伸弥ほか著/講談社

NO IMAGE

偉大なラグーマンとして、多くの人にメッセージを残して亡くなった平尾氏。ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中先生との、出会いから別れまで6年が描かれる友情の物語。
「不動の魂」 五郎丸歩 著/実業之日本社
「ノースайд・ゲーム」 池井戸潤 著/汐文社 : ドラマ原作



* 名作へのとびら *

「青柳の物語」

『怪談』より 小泉八雲 著

(図書館教育ニュース第1505号より)

古今東西にある異類婚姻譚の一つで、悲劇的な結末も共通していますが、友忠と娘が和歌のやりとりを通じて心を通わせる場面などが、いかにも日本的で印象に残ります。小泉八雲(1850-1904)は本名ラファエル・ハーンというキリシタ生まれのイギリス人ですが、日本に帰化してこの名を名乗りました。旧制高校や東京帝国大学などで英語を教えつつ、日本の文化や伝説を研究し、英訳して紹介しました。代表作『怪談』『日本の面影』など。



能登の若侍、友忠は山間の寂しい民家で美しい娘に出会います。美貌だけでなく、友忠が和歌で恋心を伝えると、すぐに返歌で答える教養までも身につけている、どこか神秘的なこの娘の正体とは？

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



※答えと本は、図書館に掲示しています。

ラグビー特集

9/20に開幕したラグビーW杯。日本各地12の開催都市で20チームが戦っています。熊本市でも2試合(10/6、10/13)が開催！

この機会にルールを知ったり、ラグーマンの考え方に触れたりしてみませんか？

おすすめ

NO IMAGE

「国境を越えたスクラム」 ラグビー日本代表をまとめた外国人選手たち

山川徹 著/中央公論新社
多様なルーツを持つ選手たちが一つのチームになっていくため、何が必要だったか。「共生」を目指す社会のヒントがここに！

熊本ゆかりの作家でもある小泉八雲。命日の9/26には、熊本市の旧居で怪談話を行う「八雲忌」が毎年開催される。